



「絶滅魚」生きていた

クニマス、70年ぶり確認

山梨・西湖

西湖で今年捕獲され、クニマスと確認された魚の標本—京都市の京都大学総合博物館、山本写す

環境省のレッドリストⅡで「絶滅」扱いになっていた日本固有の魚クニマスが、山梨県内の湖で生き残っていたことが、京都大学の中坊徹次教授らのグループの調査で分かった。生息の確認は約70年ぶり。国のレッドリストで絶滅種に指定された魚が再発見されたのは初めて。環境省は今後、レッドリストの記述を見直す方針だ。

(山本智之) 39面に立役者はさかなクン

秋田・田沢湖の固有種

クニマスはもともと、秋田 して漁業の対象にもなっていた。だが、1940年以降、富士五湖の一つ、西湖。今年3月から4月にかけて西湖で地元漁協が捕獲した通称「グ

もなく死滅。地球上から姿を消したと考えられていた。クニマスの生息が確認されたのは富士山に近い山梨県の

「クニマス」と呼ばれる魚9匹を中坊教授らが分析した。全体に黒っぽい体色だけでなく、エラの構造や消化器官の形などがいずれもクニマスと一致した。1、3月に産卵するという生態も、過去に記録されていたクニマスの生態と同じだった。また、遺伝子解析の結果、西湖に生息するクニマスと異なり、クニマスと交雑したものでないことが裏付けられた。



クニマスがかつて生息していた田沢湖(秋田県)
絶滅をまめがれ、生息していることが分かった西湖(山梨県)

レッドリストと絶滅種
環境省のレッドリストは、絶滅の恐れがある日本の動植物の一覧。環境省は1991年からレッドデータブックを刊行する一方、最新情報を集めたレッドリストをネット上で公開している。レッドリストには亜種を含む日本の絶滅種120種、絶滅危惧種3155種が掲載されている。野生生物の保全を進める上で基礎資料で、5年に1回程度、改定作業が行われている。

中坊教授が今年2月、旧知でテレビなどで活躍する東京海洋大学客員准教授のさかなクンに、生き生きとした姿を絵で再現するよう頼んだのがきっかけだった。さかなクンが絵の参考にと近縁種のクニマスを西湖から取り寄せるのと、黒い色の魚が届いた。田沢湖で絶滅する5年ほど前、放流用にクニマスの卵が10万粒、西湖に運ばれた記録がある。このとき放流されたものが繁殖を繰り返し、命をのたう」と話す。